



## 滋賀県主催 学生向けインターンシップ 「しがプロインターン」取り組み紹介

令和4年5月17日

滋賀県・株式会社いろあわせ



# 1. 当社紹介

しがジョブパーク

## ■ 滋賀県（しがジョブパーク）



滋賀県（労働雇用政策課 産業ひとつづくり推進室）が運営する「しがジョブパーク」は、年間7,000人が来場する就職支援施設。

求職者向けには、若年・就職氷河期世代を対象に、インターンシップや合同企業説明会、キャリアカウンセリング等ワンストップで就職を支援。企業向けには、セミナーや求職者とのマッチング機会を提供している。



【合同企業説明会】  
しがジョブフェスティバル



【合同企業説明会】  
私の暮らしに  
フィットする働き方展



【オンライン企業説明会】  
しがジョブLIVE!

## ■ 株式会社いろあわせ



滋賀の企業や人の「魅力の再発見」をキーワードに、人材育成／採用支援／デザイン／イベント企画・運営を中心として、2015年に滋賀県で設立。

大学生の本音に耳を傾けながら、企業活動や地域活性を推進していくためのコミュニケーションプランの立案が得意。

ノースーツの合同企業説明会や、マンガを入れた会社説明冊子の制作など、行政として大切にしないといけないポイントも押さえながら、若者が共感してもらうストーリーづくり、場づくりを大切に、地域の採用を盛り上げるプロジェクトに多数携わっている。

2020年4月より、滋賀県の就職支援機関「しがジョブパーク」の運営を受託。



【合同企業説明会】  
ローカルジョブ  
コレクション



【インターンシップ】  
ローカルインターン  
キャンプ



【周遊型謎解き】  
失踪した駅長を  
おっちょこちょいな駅員と  
探す謎解き

## 2. 学生向けインターンシップの課題と解決策

シニアインターン

### 背景

インターンシップ全盛期中、「インターンを実施（参加）すること」に目的が置かれ、企業も学生も、参加に対して意味を見出しにくくなっている。

学生にしっかりとインターンの価値を伝えるためには「とりあえずインターンシップ」ではなく、目的を明確にした打ち出しとコンテンツの用意が重要。  
学生からすると「達成感」がその企業への志望動機につながっていく。

### なぜインターンシップをするのか (行くのか) わからない

### 魅力的なインターンシップを 作る枠組みが無い

### 問題点

「とりあえずインターンシップをやったほうがいいらしい」という企業と、「とりあえずインターンシップに行ったほうがいいらしい」という学生のマッチングになっている。お互いに目的意識が薄いため、得られるものが少ない。

企業にインターンシップの内容を全て任せると、担当者のノウハウによって差が生じ、結果として、会社見学など学生が受け身の内容になってしまう。そうすると学生には魅力的に見えず、参加する動機が薄くなってしまふ。

### 解決方法

### プロジェクト型のインターンシップの実施

人事担当者は、「重要だが緊急ではない」といった社内の課題をプロジェクトにすることで、インターンのテーマを明確にできる。学生はプロジェクトの中から自分の興味があるテーマを選ぶことができるので、社名を知らずとも自分の得られる体験がわかりやすく、参加動機を得やすい。  
また、実際に学生の提案を採用できるので、企業にもメリットがある。

### 3. 「しがプロインターン」概要

しがプロインターン

自分の未来が、ちょっとクリアになる5日間。  
プロジェクト型インターンシップ

しがプロインターン

選考直結を目的としたインターンシップではなく、“働く”イメージをクリアにして次の一步に繋げることを目的として実施。

就職活動の方向性が見えるキッカケや、業界・企業に対する視野が広がるキッカケとして参加を周知。

#### 開催時期

【2020年度】 2020年8～9月、2021年1～2月

【2021年度】 2021年8～9月、2022年1～2月

※参加企業・学生にて相談の上、上記期間のうち合計5日間の実施日を決定

#### 参加数

	2020夏	2020冬	2021夏	2021冬	のべ数
企業	20	20	24	20	84
学生	45	43	60	45	193

#### 広報手段

- ・大学へのチラシ・ポスター配布（郵送・手渡し）
- ・しがジョブパーク大学担当による案内（年間を通じて訪問）
- ・しがジョブパークでの窓口案内



# 4-1. 特徴① マッチング制

参加学生・企業は、申し込み時に「コース」と「エリア」をを第3希望までを選ぶ。学生へ周知する際には「やりたいことが決まっていなくてもOK」「偶然の出会いが楽しめる」をPR。

エントリー期間が終了すると、企業・学生がそれぞれ選んだテーマとエリアをもとに、合致した学生と企業をマッチングする。

## ● 5コース×6エリアから選択

### 5テーマ

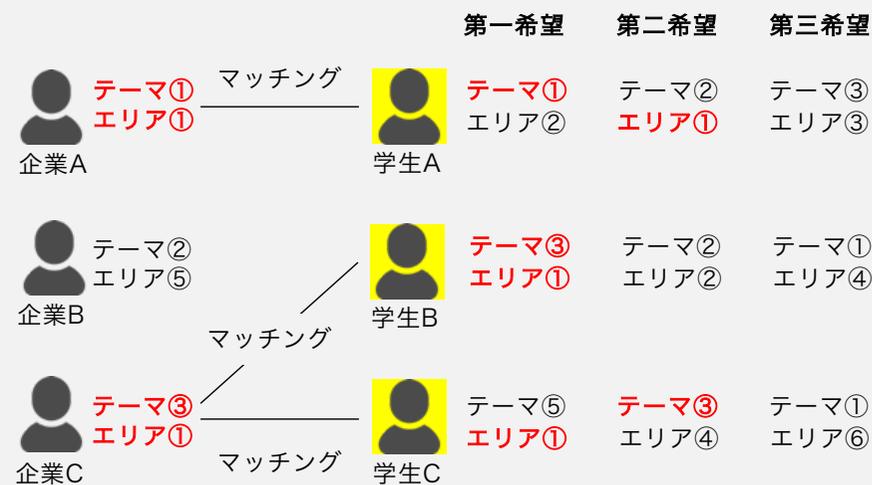
- ① 企業の魅力の伝え方を考える（採用手法・商品PRなど）
- ② 企業と社会の関わり方を考える（社会貢献・地域活性など）
- ③ 企業の新しい価値を考える（新規事業、商品・イベント企画など）
- ④ 企業のよりよい働き方を考える（社内活性、働き方改善など）
- ⑤ 企業の技術の活かし方を考える（技術開発・技術の活用/向上など）

### 6エリア

- ① 大津市、高島市
- ② 長浜市、米原市
- ③ 彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
- ④ 近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町
- ⑤ 甲賀市、湖南市
- ⑥ 草津市、守山市、栗東市、野洲市



## ● マッチング方法



これまで参加した学生のうち半数以上が知らない企業で実習したが、

「業界のイメージが変わった！視野がひろがった！」  
 「就職活動に対してポジティブに感じるようになった」  
 「滋賀の企業をもっと見てみようと思った」

という声があった。（2021年度しがプロインターン参加者アンケートより）

## 4-2. 特徴② 課題解決に特化したプログラム

シニアプログラム

実施企業には、単なる説明（聞くだけ・話すだけ）だけではなく、業界・企業の魅力をじっくり理解できるような5日間のプログラム作成を依頼。

インターンシップ経験の少ない企業にも考慮し、テンプレート資料の配布や企業への事前訪問・打ち合わせなども実施。

### プログラム（例）

- |                           |               |      |
|---------------------------|---------------|------|
| ① 企業の概要の説明                | ⑤ テーマに沿った下調べ  |      |
| ② 職場体験                    | ⑥ プレゼンテーション制作 | 【必須】 |
| ③ 社員、役員インタビュー <b>【必須】</b> | ⑦ プレゼンテーション発表 | 【必須】 |
| ④ 社員交流会                   | ⑧ 振り返り時間      |      |

### 実施例

#### インタビュー



▲社員や役員から、企業の魅力や課題はどこなのか聞いてポイントを整理。

#### 職場・業務体験



▲製造工程の見学や簡易作業の体験等を通じて、実際に働くことを体感。

#### 最終日 プレゼンテーション



▲テーマに沿った提案を行い、社員や役員からフィードバックをもらう。

# 5. 学生からの提案・企業からのフィードバック

シニア70/1=9-9

実習最終日には、各社で学生による提案プレゼンテーションを実施。参加企業は、5人以上の社員がそのプレゼンテーションを聴けるように調整。

実習先によっては、学生同士でフィードバックをしているケースもあり、「自分には考えつかなかった」「その人らしい提案だった」など、学生目線での意見が飛び交うことで、それぞれが自分自身の強みに気づくことができる機会にもつながっている。

## 実施例

### A社（福祉・彦根市）



「就労支援作業所利用者（障害のある方）が携わる商品のアイデアだしに行き詰まっている」という企業の課題に対して、学生は30代女性をターゲットにした木の商品提案を提案。

提案を聞いた企業担当者からは「仕事をしていると視野が狭くなってしまうが外からの目線で提案をしてもらって参考になった」と好評だった。

### B社（建設・長浜市）



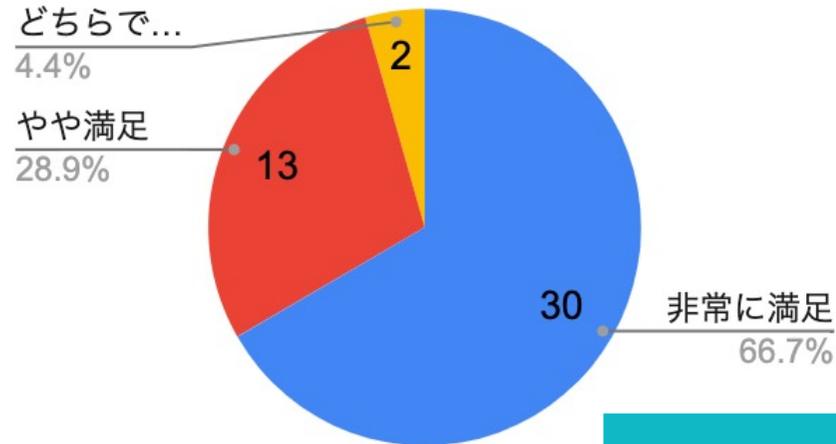
「地域住民や近隣店舗等に、建設業の魅力を知ってもらいたい」という企業の課題に対して、学生は「店舗等とコラボしてウォークラリー形式で建設現場を回ってもらう」というアイデアを提案。

インターン終了後、企業担当者と学生間の交流が続き、アイデアを具現化するための続編インターンシップを独自で実施していた。

# 6-1. 参加学生の声 (2021年度冬季「しがプロインターン」学生アンケートより)

しがプロインターン

## ● インターンシップ全体の満足度



平均4.62

### 回答

現場見学やお話を通して働くことにおけるこだわりや考え方を学ばせてもらいました。いろいろな視点から福祉の仕事について勉強できて面白かったです。

仕事の大変さについて、この5日間で多くのことを学びました。それに加えて企業研究や、プレゼンテーションの力など少し自分の力になるものが増えたからです。

自分の想像とは違っていることも多く、この発見を多くの人に伝えることで建設業はもっと人気が出るのではないかと感じました。今回のインターンで様々な経験を通して自分の視野が広がったような気がしました。

## ● この1週間での「はたらく」こと「就活」などに対する学びは？

### 回答

知ろうとする探究心が大事だと思いました。  
企業のことやその人のことを知り関わっていくことの大切だと学びました。

インターンに参加することで、企業の魅力を知ることができるだけでなく、実際に働くイメージをすることが出来ると思います。  
今回のインターンに参加して、就活をする上で自分がその企業で働いているイメージを持つことが大切だと感じました。

働くとは、自分の利益のためでなく、相手（自分が幸せにしたいと感じる人）や社会のためでもある事を改めて学んだ。  
有名企業に行く事だけがすべてではなく、本当に自分がやりたい事を明確にしたうえで企業を選ぶ事が大切である。

働くことは、簡単なことではないけれどとてもやりがいがあり、充実した毎日を送るために必要なことだと思いました。  
就活に対して、色々な企業を知り、自ら情報を収集していくことが大切だと思いました。

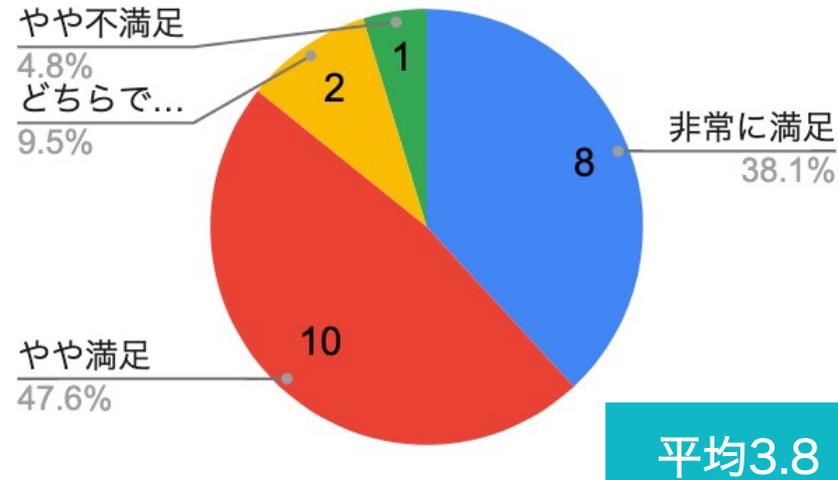
今まで就活や就職に対してネガティブなイメージがあったけど、働いている人のやりがいや楽しいと思ったエピソードを聞くと、働くことが楽しみになりました。

就職先でも、必ず社員の方と意見を出し合うというのはあるので、自分の意見をきちんと持つのももちろん大切ですし、他の人の意見も受け入れて良い部分を取り上げ解決していくことが大切だと思いました。

## 6-2. 参加企業の声 (2021年度冬季「しがプロインターン」企業アンケートより)

しがプロインターン

### ● インターンシップ全体の満足度



#### 回答

インターン生受入は初めての試みだったが、自力でやる場合に負荷が大きい部分を担っていただけたおかげで、**プログラムを考案・熟成させることに注力でき、結果として充実した5日間を提供できた**ため。

日数を重ねるごとに学生が成長するのが分かり、またインターンの企画・実行により私自身も達成感を感じることができた。**最終発表も想像していたより充実した良いものをしてくれて、関わった従業員にとっても気づきのあるものになった**ため。

普通に募集してもなかなか参加してもらえない中で、**確実に数名割り当てて下さるのは、とても、とてもありがたいです。**

### ● 学生の提案発表を聞いての学びは？

#### 回答

**当たり前だと思っていたことが当社の魅力であることを知ることができ、資料に大いに活用できるとわかりました。**  
当社の「ウィークポイントはアピールポイント」になり得るという新しい発想で、目から鱗が落ちるようでした。

既存の商品に加えて、「別のシーンで使ってもらえる」「自分なら～変えると使いやすそう」など、**アイデアの広げ方/掘り方が参考になった。**

難しい課題だったが、会社のことをよく聞き・調べ、分かりやすくまとめてくれた。**発表会に参加した従業員にとっても、SDGsそのものや、会社の取組について改めて知る機会になった。**

### ● インターンシップに参加した学生の印象と理由について

#### 回答

受け身ではなく、**自ら考えて動ける力を持っている学生さんで、任せられた**から。

短大生～大学3回生まで**年齢がバラバラで集まることは、普段の学校生活と違い学生にとっても良い刺激になる**と思います。  
また、皆さん自主的にしがプロインターンに申し込んだだけに、積極的な方が多いように感じます。

## 7. 今後の展開

しがプロインターンは今年度で立ち上げから3年目に突入します。より幅広い学生・企業に参加してもらうことで、滋賀県全体の「はたらく」が前向きになるキッカケづくりにしたいと考えています。今後も、滋賀県内の企業・学生の声により添い、インターンシップを実施していきます。

### ① 参加学生の裾野を広げる

- ⇒ 大学への周知・大学との連携を徹底する
- ⇒ 参加学生に対する、しがジョブパークでの継続的な支援

### ② 新規の参加企業取り込みと、参加企業の卒業

- ⇒ インターンシップ実施経験のない企業を取り込み、県内企業の採用力を向上
- ⇒ 参加企業が習得したノウハウを生かして、しがプロインターンを卒業し自社開催できることが目標

### ③ 学生ニーズに沿ったプログラムへのブラッシュアップ

- ⇒ 参加学生の声やノウハウの蓄積、活用
- ⇒ コースに低回生向け「業務体験コース」を新設